

## 第5学年 算数科学習指導案

### 1 単元名 「小数のわり算」

### 2 単元の目標

- ㊦ 除法が小数の場合について、計算の意味を整数の場合をもとにより広く一般化して用いられるように考えたり、計算の仕方を十進位取り記数法の仕組みをもとに考えたりしようとする。
- ㊦ 除法が小数である場合の除法の意味や計算の仕方について、数直線や除法の性質を用いて考え、説明しまとめることができる。
- ㊦ 除法が小数の場合の除法の計算をすることができる。
- ㊦ 除法が小数の場合の除法の計算の意味や計算の仕方について理解する。

### 3 こんな子どもに

本学年の子どもたちは、小数の乗法については、第4学年第15単元「小数のかけ算とわり算」で小数×整数の意味と計算まで学習しており、前単元である第3単元「小数のかけ算」で小数×小数の意味と計算方法を学習している。小数が整数と同じ仕組みで表されていることは理解しており、相対的な大きさについても理解している。乗数や除数が整数である場合の計算の仕方をもとに、小数の場合もそのまま使えることを乗法で学習している。しかし数直線を用いて数量関係を説明することについては抵抗感が強い。

### 4 こんな内容を

本単元では、「÷小数」の意味（除法の意味と拡張）と、その計算方法を扱う。除数が整数の除法から、小数の場合にも使えるようにするために数直線や言葉の式をもとにして、除法の意味を「1つ分の量」を求める計算という意味に拡張させて考えさせる。計算の仕方は、除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないという計算の決まりを活用することによって既習の整数の計算と同じ考え方で求めることができるようにさせる。小数倍の意味については、数量関係に着目させて意味を考えさせながら進めていく。本単元の学習は、分数の除法の学習において生かされる。

### 5 こんな活動で

本単元の指導にあたっては、学習過程を「つかむ」「見通す」「追究する」「振り返る」の段階にそって進めていくが、意図的・計画的に学習過程の「つかむ」「見通す」「追究する」段階に「伝え合う活動」を仕組んでいく。そのために、領域の特性や子どもの実態、発達段階、毎時間の学習のねらいに応じて、伝え合う活動の仕組み方を4タイプ採用し、子ども達がより確実に本時目標を達成していく上でどのタイプが適切かを考慮して本単元を構成する。その際、伝え合う活動を「どこに」（見通す段階、練り上げる段階）「何を」（答えの予想、考え方等）「どんな方法で」（二人組、グループ、一斉、自由交流等）「どのように」（具体物、式、言葉、図等）取り入れていくのかを明確にする。

単元導入では、前単元「小数のかけ算」の学習内容を活かして見通しを立てることができるためタイプ2を採用する。単元中盤では、学んだことをじっくり交流できるタイプ3、タイプ1を採用する。単元終盤では、本単元の習熟度を子ども達が自分で確認するためにタイプ4を採用する。このように、教師の意図的・計画的な交流の仕組みのもとに子どもたちが意欲的に学びあえるようにする。

6 単元指導計画（全13時間）※第4時はタイプ1，第5時はタイプ3

	第1時	第2時	第3時（組本時）	第6時
本時目標	・除数が小数でも，わり算の式が成り立つことを理解する。	・整数÷小数の計算（1/10の位）の仕方を理解する。	・1/100の位までの小数どうしの除法の計算の仕方を理解する。	・小数の除法でのあまりの意味を理解し，あまりをもとめることができるようにする。
学習内容と伝え合う活動	<p>1 学習問題を知り，めあてをつかむ</p> <p>リボンを2.5m買ったから代金は300円でした。このリボン1mのねだんは何円ですか。</p> <p>・3m買ったときの1mの値段を考え，2.5mへと変える。</p> <p>どんな式になるか考え，わけを説明しよう。</p> <p>2 見通しをたてる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体→二人組】</p> <p>・リボンが3mのときのテープ図も，2.5mのときのテープ図も同じ形になる。</p> <p>・わる数が小数になっても，1mの値段を求める関係は変わらない。</p> <p>・1mの代金は，代金÷買った長さは変わらない。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>わる数が小数でも，1mの値段を求めるときは，わり算の式をたてます。</p>	<p>1 学習問題を知り，めあてをつかむ</p> <p>リボンを2.5m買ったから代金は300円でした。このリボン1mのねだんは何円ですか。</p> <p>300÷2.5の計算の仕方を考えよう。</p> <p>2 見通しをたてる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>・2.5mを0.1mの25個分と考える。</p> <p>*0.1mの値段から求められる。</p> <p>・300÷25=12</p> <p>1mだからこれを10倍して120円</p> <p>*リボンを25m買ったことにして計算する。</p> <p>・25m分の値段から1mあたりの値段が求められる。</p> <p>300×10=3000</p> <p>3000÷25=120</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>300÷2.5の計算は，整数の計算になおして考えることができる。</p>	<p>1 学習問題を知り，めあてをつかむ</p> <p>6.3mの重さが7.56kgの鉄棒があります。この鉄棒1mの重さは何kgですか。</p> <p>7.56÷6.3の計算の仕方を考えよう。</p> <p>2 見通しをたてる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>・6.3は0.1が63こぶんだから7.56÷6.3=7.56÷63×10</p> <p>・63mにして計算すればいいから，7.56÷63=1.2，1.2kgになる。</p> <p>・長さが10倍になれば重さも10倍になるけど，1mの重さは変わらない。</p> <p>・わる数とわられる数を両方10倍して計算すればいい。</p> <p>・7.56÷6.3の商は75.6÷63の商と同じです。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>7.56÷6.3の計算は，わる数を整数になるようにわられる数も10倍すれば計算できる。</p>	<p>1 学習問題を知り，めあてをつかむ</p> <p>2.5mのリボンを1人に0.7mずつ配ります。何人に配ることができますか。また，何mあまりありますか。</p> <p>小数の余りの大きさについて考えよう。</p> <p>2 見通しをたてる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>・2.5÷0.7をそれぞれ10倍して25÷7として求めたので余り4は0.4になります。</p> <p>・余りは0.7より小さくないといけないので，4ではおかしいです。</p> <p>・4は0.1が4個分なので0.4です。</p> <p>・テープ図で考えると余りは0.4mです。</p> <p>・筆算では余りはわられる数のもとに小数点にそろえればいいです。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>余りの小数点は，わられる数のもとに小数点にそろえてうつ。</p>
伝え合う活動の支援	<p>・全体交流をした後，二人組での伝え合う活動を行う。</p> <p>・課題追究の場で，3m買った時と，2.5m買った時のテープ図を比べさせて，数量関係が同じことに気付かせ自分の言葉で伝え合わせる。</p>	<p>・全体で伝え合わせる。</p> <p>・テープ図をもとに，自分の考えを伝えさせる。</p> <p>・テープ図をもとに，自分と違う考えを，伝え合わせる。</p>	<p>・全体で伝え合わせる。</p> <p>・数直線をもとに，数量関係を説明させる。</p> <p>・2つの考えを聞いて，共通点，相違点を中心に交流させる。</p> <p>・どちらが，早くて考えやすいか伝え合わせる。</p>	<p>・全体で伝え合わせる。</p> <p>・テープ図をもとに，余りが4mではなく，0.4mになることを説明させる。</p> <p>・筆算で，最後の4は0.1が4個であることを伝え合わせる。</p>
	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ2【練り上げ重視型】

※第7時はタイプ1, 第11時はタイプ2, 第13時はタイプ4

	第8時	第9時 (組本時)	第10時	第12時 (組本時)
本時目標	・数直線を用いた除法の演算決定について理解する。	・比較量, 基準量が小数の場合も倍を求めるときは除法を用いればよいことを理解する。	・倍を表す数が小数の場合でも, 基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。	・学習内容の定着を確認し, 理解をより確実にする。
学習内容と伝え合う活動	<p>1 学習問題を知り, めあてをつかむ</p> <p>4.5mの重さが 0.9 kgのホースがあります。この問題の続きを考え, 式と答えを求めましょう。</p> <p>1 ○の何△を求めるか続き考えよう。</p> <p>2 見通しをたてる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>①このホース 1mの重さは何kgになりますか?</p> <p>②このホース 1kgの長さは何mになりますか?</p> <p>・課題別の伝え合う活動をする。</p> <p>①<math>0.9 \div 4.5 = 0.2</math> 0.2kg</p> <p>・1mの重さを求めるからわかる数は4.5mです数直線で説明すると…</p> <p>②<math>4.5 \div 0.9 = 5</math> 5m</p> <p>*1kgの長さを求めるからわかる数は0.9kgです。数直線で説明すると…。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>1mあたりの重さを求める場合と, 1kgあたりの長さを求める場合と二通りの問題ができる。</p>	<p>1 学習問題を知り, めあてをつかむ</p> <p>ゆりえさんの道のりをもとにすると他の人の道のりはそれぞれ何倍でしょう。</p> <p>もとにする大きさやある大きさが小数の時, 何倍かを求めるときはどんな計算をしたらよいか考えよう。</p> <p>2 見通しをたてる【全体交流】</p> <p>・たくやさんの場合で数直線をもとに問題場면을説明する。</p> <p>・どんな計算をすればいいか数直線で交流する。</p> <p>・ゆりえさんがもとので1.24を1とすると4.8は□倍になります。4.8の中に2.4が何回あるかを求めればよいです。</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>小数の時も, 何倍かを求めるときは, ある大きさをもとにする大きさでわればよい。</p>	<p>1 学習問題を知り, めあてをつかむ</p> <p>れなさんの家には生後10日の犬がいます。今の体重は630gで生まれた時の体重の1.8倍です。生まれた時の犬の体重は何gでしたか。</p> <p>もとにする大きさの求め方を考えよう。</p> <p>2 見通しをたてる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>・数直線から, □に1.8をかけたなら630になるので, 生まれたときの体重を□gとすると□×1.8=630で表せます。</p> <p>□を求めるには</p> <p>□=630÷1.8</p> <p>=350 350gとなる</p> <p>□を1とみたとき, 1.8にあたるのが, 630です。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>もとにする大きさを求めるときは, □を使ってかけ算の式に表す。それからわり算で□を求める。</p>	<p>1 めあてをつかむ</p> <p>自分にあったコースを選んで練習問題に取り組みよう。</p> <p>2 見通しをたてる。</p> <p>(1) ためしの問題に取り組む。</p> <p>①わりきり問題</p> <p>②あまり問題</p> <p>③四捨五入問題</p> <p>④文章問題</p> <p>・自分にあった学習内容を選択させる。</p> <p>(2) 答え合わせをして, 自分のコースを決める。</p> <p>3 コースごとに自力解決する</p> <p>【コース別二人組】</p> <p>・問題を解決するために, コースの子ども同士での伝え合う活動をする。</p> <p>4 本時学習を振り返る</p> <p>(1) 「今日の学習で」を書き, 発表する。</p>
伝え合う活動の支援	・問題の続きを全体で伝え合わせる。 ・問題の続き別に式と答えを伝え合わせる。 ・数直線を活用しながら式を説明させる。 ・他の問題の式と答えを全体で伝え合わせる。	・見通しの段階で, 倍を求める考え方をたくやさんの場合で数直線を使って全体で伝え合わせる。 ・他の人の数値や求めることを数直線上で伝え合わせる。	・全体交流をさせる。 ・数直線をもとに, □を使ったかけ算を説明させる。 ・題意をもとに順に考えて立式させる。 ・□を求めるためにわり算になることを説明させる。	・自力解決の段階で, 問題の解き方や解決できなかった問題を, コース別に二人組で伝え合い, 解決させる。
	タイプ3【交流活動重視型】	タイプ1【見通し重視型】	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ4【習熟重視型】

### 第3時

#### 1 本時目標

- 1/100の位までの小数どうしの除法の計算の仕方を理解する。

#### 2 本時のタイプ

タイプ2【練り上げ重視型】：追究での考え方を焦点化していく伝え合う活動

#### 3 本時授業仮説

「追究する」段階において、次のような支援を行えば、新たな数理を練り上げるための全体交流ができ、1/100の位までの小数どうしの除法の計算の仕方を理解することができるであろう。

- ① 新しい数理を練り上げるための全体での伝え合う活動
- ② 既習の計算のきまりを使って、小数を整数に変えることで、今までと同じように計算できることを焦点化していく発問

#### 4 本時指導の考え方

本時は本単元第3時であり、第1,2時までの学習をもとに、1/100の位までの小数÷小数の除法の計算の仕方を理解する場面である。したがって、既習をもとに、自分の考えを作りだし、それをもとに本時の数理を全体で練り上げていかなければならない。つまり、「追究する」段階が重要であると考えることができる。そのため、練り上げを重視するタイプ2【練り上げ重視型】で本時学習を行う。

伝え合う活動Ⅰでは、各自見通しをもたせ、それを二人組で伝え合わせた後、全体で伝え合う活動をする。その際「問題場面を、数直線を使って説明しましょう。」や「□を求めるにはどんな式になるか数直線を使って説明しましょう。」という発問から、既習と本時の類似点や相違点を明らかにすることで、本時で使える既習の考え方をつかみ、自分の見通しを立てて追究段階へ臨む。

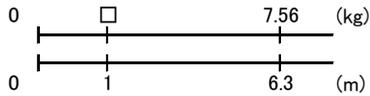
伝え合う活動Ⅱでは、①6.3mは0.1mが63こ分という考えと、②63mの重さを求めても1mあたりの重さは変わらないという考えの二つの考えを式や数直線、言葉をもとに全体で伝え合う活動をする。①と②の考えの妥当性を明らかにした後「①と②の考え方の共通点や類似点は何でしょう。」という視点で伝え合い、どちらもわる数の「6.3」を整数になおしていることが一緒であり「7.56÷6.3の計算は、わる数が整数になるようにわられる数も同じように10倍すれば計算できる」という新しい数理を獲得できるようにする。その後「二つ考えを比べるとどちらがより簡単で早いか」という視点で伝え合わせ、筆算につながる②の考えのよさをおさえる。

#### 5 授業の展開 (3/13)

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つかむ	1 学習問題を知り、めあてをつかむ 問題 6.3mの重さが7.56kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう1mの重さは何kgですか。 ○わる数もわられる数も小数です。	・前時までの学習を想起するように、既習内容を掲示する。  *全体での伝え合う活動を行う。

見  
通  
す  
追  
究  
す  
る

○数直線で問題場面を説明すると



○1 mを求めるので、 $\square \times 6.3 = 7.56$

$\square = 7.56 \div 6.3$  になります。

式  $7.56 \div 6.3$  です。

めあて  $7.56 \div 6.3$  の計算の仕方を考えよう。

2 見通しを立てる【伝えあう活動Ⅰ】

○6.3mは0.1mが63こ分

○63mの重さを求めても1mあたりの重さは変わらない。

3 自力解決する

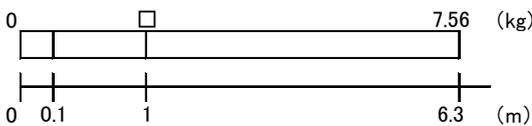
4 課題を追究する【伝えあう活動Ⅱ】

①6.3mは0.1mが63こ分だから

$$7.56 \div 63 = 0.12 \quad 0.12 \times 10 = 1.2$$

答え 1.2 kg

○数直線で説明すると…



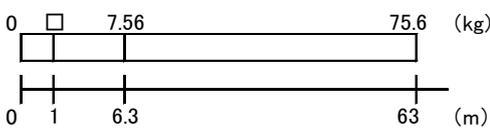
②鉄の棒の長さを10倍にして、重さも10倍になっても1mあたりの重さは変わらない。

$$7.56 \div 6.3 = 1.2$$

10倍      ↓      ↓      10倍

$$75.6 \div 63 = 1.2 \quad \text{答え } 1.2\text{kg}$$

○数直線で説明すると…



○どちらの考えも答えは同じになります。

○どの考えもわる数を整数に変えれば今までと同じように計算できる。

○ $7.56 \div 6.3$ の商は、 $7.56 \div 6.3$ の両方を10倍した $75.6 \div 63$ の商と等しくなっている。

5 本時学習を振り返る

まとめ  $7.56 \div 6.3$ の計算は、わる数が整数になるようにわられる数も同じように10倍すれば計算できる。

振  
り  
返  
る

\*数直線をもとに問題構造を伝え合わせる。

\*「問題場面を、数直線を使って説明しましょう。」「 $\square$ を求めるにはどんな式になるか数直線を使って説明しましょう。」

\*二人組での伝え合う活動→全体での伝え合う活動を行う。

\*前時までの考えを掲示物を使って振り返らせる。

\*「わる数が小数の場合どうしたらいいですか。」

\*自分なりの見通しが立てられたか二人組で確認の伝え合いをさせる。

\*全体での伝え合う活動を行う。

\*数直線を使って考え方を伝え合わせる。

\*「数直線を使って自分の考えを説明しましょう。」

\*2つの考えが数直線でどのように表されているかに着目させ、数直線の表し方の相違点の伝え合いを促す。

\*2つの考えの相違点から考えていく。

いつでも使える考え方するために

「①と②の考え方の同じところや似ているところは何でしょう。」

「どちらがより簡単で早いでしょう。」

\*「 $7.56 \div 6.3$ の答えと、 $75.6 \div 63$ の答えを比べてみましょう。」

\* $7.56 \div 6.3$ の商は、 $7.56 \div 6.3$ の両方を10倍した $75.6 \div 63$ の商と等しくなっていることに気づかせ次時の筆算の仕方へつなぐ。

## 第9時

### 1 本時目標

- 比較量，基準量が小数のときも，何倍かは除法で求められることを理解する。

### 2 本時のタイプ

タイプ1【見通し重視型】：見通しでの考え方を焦点化していく伝え合う活動

### 3 本時授業仮説

「見通す」段階において，次のような支援を行えば，解決の見通しをつかみ，比較量，基準量が小数の場合も，何倍かを求めるときは除法を用いればよいことを理解するであろう。

- ①自分の見通しを立てることができるための全体での伝え合う活動
- ②既習の問題場面と同じ問題構造であることを明らかにして，□を求めるときはどんな式になるかを明らかにしていく発問

### 4 本時指導の考え方

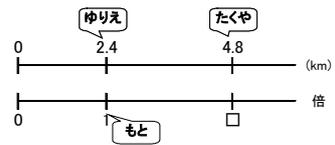
本時は，比較量，基準量が小数のときも，何倍かを求めるときは除法で求められることを理解する場面である。本単元までに倍を求める考え方は，低学年から系統的に学習している。しかし，何倍かを求める考え方は子どもにとって抵抗の強い学習内容である。そこで，倍の表し方，□を求めるときの演算決定について既習をふり返った後，一つの比較量をもとにその場面を数直線に表しながら，比較量，基準量が小数の場合も同じ問題構造になっていることを見通すことが大切になる。つまり，「つかむ」「見通す」段階が重要であると考えることができる。そのため，見通しを重視するタイプ1【見通し重視型】で本時学習を行う。

伝え合う活動Ⅰでは，既習を想起した後，一つの小数の比較量をもとに，基準量や比較量が小数の場合に何倍かを求めるときはどうすればよいか，数直線で問題構造を明らかにさせる発問をもとに，全体で伝え合う活動を行う。伝え合ったことから，「基準量や比較量が小数の場合でも，整数と同じように□は比較する量をもとにする量で割れば何倍かが分かりそう」という見通しをもって，自力解決に臨む。

伝え合う活動Ⅱでは，たくやさん，みさきさん，ひろしさんがそれぞれゆりえさんの何倍になるかを数直線を使って考え方を交流し，新しい数理である「比較量，基準量が小数の場合も，何倍かを求めるときは除法を用いればよい」という考え方を理解することができるようにする。

### 5 授業の展開（9／13）

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つかむ	<p>1 学習問題を知り，めあてをつかむ</p> <p>問題 ゆりえさんの道のりをもとにする と，ほかの人の道のりは，何倍ですか。</p> <p>○問題場面の数字が小数です。</p> <p>めあて もとにする大きさやある大きさが 小数の場合，何倍かを求めるときはどんな 計算をしたらよいか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・レディネステストで学習した比較量，基準量が整数の場合の倍を求める数直線，言葉のカードを準備しておく。</li><li>・4年生で学習した整数の場合の何倍かを求める振り返りを行う。</li></ul>

見 通 す	<p>2 見通しを立てる【伝え合う活動Ⅰ】</p> <p>(1)数直線に分かっていることや求める□を書きこみ、伝え合う</p>  <p>○数直線で説明すると、ゆりえさんの 2.4 がもとなので1、たくやさんは 4.8 なのでこのあたりに書き、何倍かは分からないので□になります。</p> <p>○今までは整数だったけど、今日は小数になっている。</p> <p>(2)数直線からどんな計算をすればよいか考え、伝え合う</p> <p>○わり算でできそう。</p> <p>○整数の時と同じように、ある大きさをもとにする大きさをわればよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 全体での伝え合う活動を行う。</li> <li>* 自分の数直線にたくやさんの場面を書きこませ、問題の構造を伝え合わせる。</li> <li>* 「たくやさんの場合と今まで学習してきた倍を求める場面を比べると、数直線での考え方は同じですか、違いますか」</li> <li>* 黒板用の数直線を準備する。 「たくやさんの問題場面を、数直線を使って説明しましょう。」</li> <li>* 説明に合わせて、板書に「もと」カードを掲示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>見通しでの考え方を焦点化していくために 「□を求めるには、どんな計算をしたらよいか、数直線を見て考えてみよう。」</p> </div>
追 究 す る	<p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【伝え合う活動Ⅱ】</p> <p>(1)何倍になるかを求める式とその根拠を数直線をもとに伝え合う</p> <p>○数直線から 2.4 を□倍すると 4.8 になります。 <math>2.4 \times \square = 4.8</math> だから、□は <math>4.8 \div 2.4</math> で求められます。</p> <p>○みさきさんは、数直線から 2.4 を□倍すると 3.6 になります。<math>2.4 \times \square = 3.6</math> だから□は <math>3.6 \div 2.4</math> で求められます。</p> <p>○ひろしさんは、数直線から 2.4 を□倍すると 1.8 になります。<math>2.4 \times \square = 1.8</math> だから□は <math>1.8 \div 2.4</math> で求められます。</p> <p>(2)3人の場面の共通点を伝え合う</p> <p>○3つとも、もとになる大きさの 2.4 でわっている。これは、整数の場合と同じ。</p> <p>○もとにする大きさやある大きさが小数の時も、ある大きさをもとにする大きさをわれば倍が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 全体での伝え合う活動を行う。</li> <li>* 「どうしてその式になるのか数直線を使って説明しましょう。」</li> <li>• 既習の掲示物を使って、本時の2つの数量関係を言葉を使って伝え合わせる。</li> <li>• 「2.4 を 1 とみたとき、4.8 は 2 にあたる。」という新しい表現を知らせる。</li> </ul> <p>* 小数のときも、何倍かを求めるときは、ある大きさをもとにする大きさをわればよいことを確かめさせる。</p> <p>* 「3人の場面で、同じ考え方がありますか。」</p>
振 り 返 る	<p>5 本時学習を振り返る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>小数のときも、何倍かを求めるときは、ある大きさをもとにする大きさをわればよい。</p> </div>	

## 第12時

### 1 本時目標

- 学習内容の定着を確認し、理解をより確実にする。

### 2 本時のタイプ

タイプ4【習熟重視型】：追究する段階で、自分の理解を確かにしていく伝え合う活動

### 3 本時授業仮説

「追究する段階」において、次のような支援を行えば、学習内容の定着を確認し、理解をより確実にすることができるであろう。

- ① 除数が小数の場合の除法の問題を解決するための伝え合う活動
- ② 自力解決段階で自分の理解を確かにするための発問

### 4 本時指導の考え方

本時は単元終盤であり、除数が小数の場合の除法の意味や計算内容の定着度を確認し、自分の理解度をより確実にする場面である。そこで、本時は本単元の学習内容の理解を自分で確認し、定着をより確実にしていくことが重要である。そのため、「自力解決」段階で、練習問題を解決できたか、できなかった場合どこが間違っていたのかを伝え合うことが大切である。したがって、タイプ4の【習熟重視型】で本時学習を行う。

まず、見通す段階で、ためしの問題（①わりきり問題②あまりがでる問題③四捨五入問題④文章問題）に①から順に取り組ませる。時間を決めてできるところまで取り組ませ、答え合わせをする。その後、コース選択の視点である「つまずいたところからコースを選択する」ことを教師から示し、習熟度の度合いによって自分のコースを自己選択させる。自力解決の段階では、選択したコースの問題を解き、答え合わせは同じコースの子ども同士で行う。その際「解き方を確認しながら答え合わせをして、答えが違う場合は、どうしてそのような考えになったのかをしっかりと伝え合うことが今日は大切です。」と、答え合わせの視点をはっきりと示す。また、答えが違い、伝え合っても解決しない場合は教師に確認に来るように指示し、学習内容の理解を確実にしていきたい。

### 5 授業の展開（12／13）

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つかむ	1 めあてをつかむ めあて 自分にあつたコースを選んで練習問題に取り組もう。	
見通す	2 見通しを立てる (1) ためしの問題に取り組む ①わりきり問題 ②あまりがでる問題 ③四捨五入問題 ④文章問題	・本単元の学習内容を振り返る。 ・短時間でためしの問題に取り組ませ、自分の理解度をつかませる。

<p>追究する</p>	<p>(2) 答え合わせをして自分のコースを決める  ○ぼくはあまりが出る問題がよくわかってないからあまりから学習します。  ○私は文章問題がよくわからなかったら、その問題からします。</p> <p><b>3 コースごとに自力解決する【伝え合う活動Ⅱ】</b></p> <p>(1) 自分のコースの問題に取り組み、時間がきたら、コースの子ども同士で解決する  (2) 終わったら、別のコースの問題に取り組む</p> <p>①わりきり問題コース  ②あまりがでる問題コース  ③四捨五入問題コース  ④文章問題コース  ⑤問題作りコース</p> <p>○ここが違うね。あまりは、もとの小数点の位置に戻せばいいね。そうか。  ○この問題は、どうしてこの式になるのですか。もともになる量が違うのかな。  ○この文章問題はむずかしいね。よく考えついたね。僕の問題にも挑戦してよ。どんな式になると思う？  ○考えがまとまらないね。先生に聞こう。  ○そうか、よく分かったね。</p>	<p>* 「自分が苦手とする問題から選択しましょう。決められないときは先生に相談してください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コースの場所を分かりやすく教室の中で区切っておき、自分の選択したコースの場所で問題に取り組ませる。</li> <li>・ それぞれのコースに問題プリントを準備しておき、時間を決めて取り組ませる。</li> <li>・ 前時までの子どもの学習内容の理解度を把握しておき、つまづきそうな子どもに助言する。</li> <li>・ 分からないときは、既習のワークシートや掲示物をもう一度振り返るように指示する。</li> </ul> <p>自分の理解をより確かにさせるために  「解き方を確認しながら答え合わせをして、答えが違う場合は、どうしてそのような考えになったのかをしっかりと伝え合うことが今日は大切です。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* あまりの数の小数点の位置や、概数で求めるときの処理の仕方などを説明するように促す。</li> <li>* □を使った式や数直線等を活用し、説明するように促す。</li> </ul> <p>分からない問題を理解させるために  「意見が合わないときは、お互いの考え方を先生に伝えに来てください。」</p>
<p>振り返る</p>	<p><b>4 本時学習を振り返る</b></p> <p>「今日の学習で」を書き、発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の学習でわかったこと、より理解できたこと、友だちと自力解決をしてよかったこと等の視点で書くように促す。</li> </ul>